

## 1 学校教育目標

- 1 礼儀を重んじ他を思いやる生徒（徳）
- 1 自ら考え創造する生徒（知）
- 1 心身を鍛え根気強く成し遂げる生徒（体）

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校 ○教師が常に指導力の向上を目指す学校 ○生徒・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○自尊感情と自己肯定感の高い生徒 ○礼儀正しく、他者には優しく自己に厳しい生徒 ○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒 ○自ら考え判断し行動できる生徒
○教師像	○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師 ○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師 ○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 <教育活動全般>

生徒自己診断アンケート結果「学校が楽しい」と回答した生徒が95.5%、保護者アンケート「子供は六月中の生活に満足している」に92.1%が肯定的回答であった。生徒一人一人に目を向け寄り添い指導に当たっている結果である。今後も生徒個人の実態に応じた指導を進め、安心して安全な学校生活を送ることができる環境を作り上げていく。ご家庭との協力のもと確かな学力を身に付け、自身の進路を自らの考えと判断の下に選択していきける能力や態度を育成し社会に貢献していくことのできる生徒へと成長させていきます。

### 2 <学力向上>

授業の理解度に関し学校全体として75.7%であり教師の努力により16ポイントほど7月に比べ12月は向上した。ただし2月に行った到達度確認テストでは学校全体として正答率が56.7%であり、授業内容の確実な定着というところに課題が残る。

また、1年数学は正答率68.8%であるが2年生45.7%、英語は1年生が正答率49.8%であり2年生は54.2%と学年や教科により定着の状況に差がある。

生徒の宿題の実践も90%と高いが、家庭学習1時間以上実施が52.7%である。家庭学習の定着が課題である。

### 3 <不登校・不適応対応>

「六月中での生活は楽しい」と回答している生徒は95.5%、保護者「子供は良い友人関係を築けている」93.7%「いじめのない生活を送っている」93.8%と高い数値であった。多くの生徒が学校生活に満足しているが、学校全体として不登校生徒が7%ほど存在している。今行っている手厚い支援を今後も継続して行っていく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	教師の指導力授業力の向上	○	○	○	○	○
3	心の教育の充実	○	○	○	○	○
4						

## 5 令和3年度の重点目標

<b>重点的な取組事項－1</b>	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
区学力調査の結果向上と授業改善	到達度確認テスト 正答率学校全体 60% 通過率学校全体 60%		自己評価の際に記入	

### B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	放課後補充学習 25分×週4回	国・数・英語を中心に5教科	月火木金 25分×週4回	<b>【指導体制】</b> 全学年の教員 <b>【取組のねらい・目的】</b> 学習習慣を身に付け、確かな学力の定着を図る。 <b>【使用教材】</b> ○放課後補充教室の実施 区調査目標値未通過者を対象「あと2～3問正答」すれば 目標値通過生徒 ○各教科コンテストの実施 ・E ライブラリーにある教材未定着学習内容と復習を中心とした内容とする。	定期テストで検証する。  再テストで検証する。  コンテスト結果で検証する  年度末到達度テストで検証する。	・定期テスト50%以上。  ・再テストの合格達成率80%以上。	自己評価の際に記入		

2 改善	サマースクール	全生徒 定期テストの目標 値以下	夏季休業期間 中の7日間	全教員体制で取り組む。 ・1年生 2年生 50分×2教科×2時間 英語、数学の基礎的な内容 の定着を図る。 ・3年生 50分×5教科×2時間 都立・私立の過去問などを 活用して、入試対策を行 う。	・毎回プリントの採点をして返却し、自宅で復習させる。 ・夏休み終了後、確認テストを実施する。	・生徒の毎回の参加と復習確認。 ・入試問題に取り組み、正答率70%以上を目指す。			
3 継続	家庭学習ノート	任意の教科	通年	【指導体制】全学年全学級 【取組のねらい・目的】 自立的学習習慣を身に付け、 確かな学力の定着を図る。 【使用教材】 学校での学習教材を活用し 授業で学習した内容について の復習や自身が取り組む 発展的内容とする。	○家庭学習ノートの提出率 ○「学習習慣」「学力向上」 について自己評価させる。 ○家庭学習ノートが授業内容 とマッチしているか確認 させる。	○全校での提出率80%以上 ○「学習習慣の定着」「学力向上 への影響」と肯定的な回答 90%以上。 ○家庭学習で学校の授業内容の 実践 70%。			
4 新規	学習カウンセリング	全教科	定期	【指導体制】全学年全学級 全教員で取り組む 【取組のねらい・目的】 自立的学習習慣を身に付け、 るため生徒の学習に対する 悩みや課題を解決する	生徒へ中間、年度末でのアンケートを実施する。	・全校生徒アンケート結果肯定的回答80%以上			

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<b>重点的な取組事項－２</b>	教師の指導力・授業力の向上
-------------------	---------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師一人一人の指導力向上	教師一人一人の指導力向上について下記の2項目を達成する	<b>自己評価の際に記入</b>		

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の基本の確立</li> <li>・統一された学びのスタイルの習得と確立</li> <li>・管理職による授業評価4段階 B以上 90%以上</li> <li>・生徒の授業満足度90%</li> <li>・保護者授業参観アンケート「改善を要する」5%以下</li> <li>・学校評価項目 90%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○足立スタンダード授業の習得と実践</li> <li>○学校及び学年共通指導</li> <li>○個別最適な学びの工夫</li> <li>○自己申告書授業参観、面接を重視</li> <li>○教科指導専門員の指導助言</li> <li>・授業分析（通年）</li> <li>・板書撮影と発問記録による授業分析</li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>		
資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>都 OJT ガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成</li> <li>・基礎形成期の目標達成</li> <li>・職層に応じた職務の遂行</li> <li>・共通理解と共通行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主幹、主任主催研修の定期実施と転入・新規採用教員研修の実施</li> <li>○OJT 自己評価の実施</li> <li>○区中研への全教員参加</li> <li>○都研修センター主催研修への参加</li> <li>○教師道場公開授業参観と校内還元公開授業の実施</li> </ul>			


<b>重点的な取組事項－3</b>	心の教育の充実
-------------------	---------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人の心の教育	学校評価による数値の向上	<b>自己評価の際に記入</b>		

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○心の教育の充実 ○いじめ防止 ○道徳授業の充実	・学校評価による心の育成についてB評価以上 90% 学校生活満足群 50%以上 学級生活不満足群 15% 以下 ・自己肯定感の調査で、肯定的評価の生徒 90% ・いじめ防止活動アンケート集計肯定的評価 90%	○QU調査年間実施2回 ○生徒会と保護者地域連携あいさつ運動 ○生徒会「いじめ根絶」活動の実施 ○外部指導者を招きオリパラ教育や特別授業を実施 ○道徳公開授業の充実			

○不登校児童への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価「子供は六月中の生活に満足している」項目B以上90%</li> <li>・不登校生徒の登校支援をすすめる継続的な関係づくりと定期面接の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援委員会とケース会議の計画的実施</li> <li>○SSW, SCの有効活用</li> <li>○学校での居場所づくり</li> <li>○保護者、地域関係者との連携</li> </ul>			
○全校体制での生徒への個別支援	修学支援委員会の年間35回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週木曜3校時に修学支援委員会を実施</li> <li>○SC・SSWと不登校、不応答生徒の情報の共有化を図る。</li> <li>○特別支援教室との個別支援の連携充実を図る。</li> </ul>			

## 6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。  
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。